

目指す子供の姿

- 語彙を豊かにし、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを適切に表現する子
- 言葉に着目しながら、文章を読んで感じたことや考えたことを豊かな語彙を使って共有し、自分の考えを広げたりさらに明確にしたりできる子

何ができるようになるか（国語科で育成する資質と能力）

- ・国語についてその特質を理解し適切に使うことができる。
- ・人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- ・言葉のもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る。

何が身に付いたか（国語科の学習評価）

- ・読みを確かにするために、言葉に関心を持ち、意味を理解し、使うことができる語彙を増やしている。
- ・読みを確かにするために、人と関わり合いながら、読み取ったことや自分の考えを表出、共有している。

実施するために何が必要か

（指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働）

- ・校内研修体制の確立
- ・国語科と外国語活動の関連を考えた単元配置及び構成の工夫と付けたい力の明確化（カリキュラム・マネジメント）
- ・言語環境と図書室や絵本館の整備
- ・人間関係の土壌づくり
- ・スキル習得の時間設定
- ・保護者への研究のねらいの周知
- ・外部人材の活用

国語科において何を学ぶか

- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえること。
- ・自分の考えを明確にしながら読むこと。
- ・語彙を豊かにすること。

子供一人一人の発達をどのように支援するか

◆語彙を豊かにするために

- ・言葉への関心を高め広げる学習環境の設定
- ・日常での活用場面の設定
- ・「ことば温泉」の活用
- ・「ことば温泉タイム」の実施
- ・読書活動の充実
- ・教師による意識的な豊かな語彙の活用
- ・「取り立て」「取り上げ」指導
- ・国語辞典、漢字辞典、類語辞典の活用

◆指導のひと工夫

- ・自分の考えを表現する語彙を豊かにする活動の設定
- ・意味を理解した語彙を使って表現する場の設定
- ・第1次での単元のゴールの見通し
- ・発達段階と児童のつまずきに応じた
スモールステップの指導
- ・交流場面の見える化
- ・思考の足跡を残す板書
- ・効果的な IT 指導

どのように学ぶか

○3つの対話（教材・他者・自分）

- ・教材との出会いの工夫と組み合わせ
- ・付けたい力を明確にした単元と授業構成
- ・付けたい力に応じた言語活動の設定
- ・自分の考えをもつ場の設定
- ・児童の思考を促す発問と指示
- ・交流の際のグルーピングとタイミング
- ・自分の学びや思考の変容が分かる振り返り

○外国語活動との連携

国語教育を通じて外国語の特徴に気付かせ、言葉の働きや仕組みなどの言語としての普遍性や固有の特徴への気付きを促す

国語科における子供の実態

- ・本や文章を読んで、自分の考えをもつことはできるが、その考えを適切な語句を使い効果的に表現することが苦手である。
- ・語句の意味を理解していても、活用できていない。